

TMPU Family

東北医科薬科大学報

2021.7

vol. 37



大学より

**新型コロナウイルス感染症に
対する本学の対応**

薬学部より

遠隔授業、対面授業の実施状況

医学部より

大学院医学研究科の設置について

附属病院より

**「地域がん診療連携拠点病院」に
指定されました**

CONTENTS

学長挨拶 1

大学より

新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症に対する本学の対応 2

新型コロナウイルス感染症 感染予防ハンドブック

～自宅療養をする方へ・同居の方へ～ 2

保健管理センターの利用 2

学生相談室の対応 2

大学関係

令和2年度大学機関別認証評価の認定 3

令和3年度入学宣誓式挙行 3

新入生オリエンテーション 3

令和2年度卒業証書授与式挙行 4

生命薬科学科卒業研究優秀発表賞受賞者決定 4

2021オープンキャンパス 4

学生関係

特別奨学金について(薬学部対象) 5

令和2年度奨学金受給状況について 5

医薬連携

医薬研究交流事業 5

薬学部生による医学部解剖学実習見学

(医療倫理入門) 5

薬学部より

薬学部長挨拶 6

遠隔授業、対面授業の実施状況 6

第106回薬剤師国家試験結果 6

生命薬科学科新カリキュラム2021 6

専門職連携教育(IPE) 6

白衣授与式 7

実務実習について 7

共用試験(CBT、OSCE)について 7

TBL(アドバンス薬学演習)について 7

早期体験学習 7

進級基準について 8

薬学部 後期行事予定 8

医学部より

医学部長挨拶 9

遠隔授業、対面授業の実施状況 9

臨床実習について 9

共用試験(CBT、OSCE)について 10

東北大学白菊会について 10

大学院医学研究科の設置について 10

進級基準について 11

医学部 後期行事予定 11

教養教育センターより

教養教育センター長挨拶 12

物理学教室担当科目紹介 12

図書館より

二松会からの図書寄贈御礼 12

令和2年度図書館利用状況・蔵書統計報告 12

大学院より

令和2年度大学院学位記授与関係 13

入試センターより

令和3年度入学者選抜結果 14

令和4年度入学者選抜概要 14

キャリア支援センターより

令和2年度就職(進学)状況 15

合同就職説明会を遠隔で実施 15

令和3年度薬学部キャリア・就職支援行事予定 16

法人より

新評議員紹介 17

令和3年度事業計画・令和2年度事業報告 17

令和2年度決算 18

令和2年度外部資金獲得状況 19

学内人事 20

附属病院より

本院より 21

若林病院より 21

トピックス

永年勤続者表彰 22

薬剤部長就任 22

東北医科薬科大学研究誌第67号発刊 22

教養教育関係論集第34号発刊 22

あおもり藍を使ったお茶「あおもり藍茶」が発売 22

中級バイオ技術者認定試験に合格 23

第1種放射線取扱主任者試験に合格 23

薬学部 微生物学教室 大学院の関根 僚也さんが

2020年度「日本薬学会 環境・衛生部会実行委員長賞」を受賞 23

薬学部 薬理学教室 大学院生 山縣 涼太さんが

「令和2年度日本薬学会東北支部大会若手研究者発表賞」を受賞 23

薬学部 臨床感染症学教室の藤村 茂 教授が

日本機械学会賞を受賞 24

医学部 法医学教室 奈良 明奈 助教に

新潟県警察から感謝状贈呈 24

医学部 感染症学教室 賀来 満夫 特任教授が

日本野球機構(NPB)とJリーグから表彰 24

教室紹介

薬学部 環境衛生学教室 25

医学部 法医学教室 25

同窓会より

叙勲・表彰 巻末

第7回ホームカミングデイ開催中止のお知らせ 巻末

二松会より

..... 巻末

令和3年度在学生保護者教育懇談会開催案内 巻末

ご寄付のお願い(教育研究協力資金) 巻末

コロナ後の時代を展望しつつ 大学運営を進める

理事長・学長 高 柳 元 明



コロナウイルスのパンデミックが依然として猛威をふるっています。本学の入学式は昨年中止となりましたが、今年は規模を縮小して70周年記念講堂で実施いたしました。代表者に対面で式辞・祝辞を述べ、その模様を講義棟の講義室に分散している各学生にオンラインで配信するという形式をとりました。今年も保護者の皆様にご参列を頂けなかったのは、本当に残念でした。コロナ禍での受験勉強や入学試験には、精神的にも大変つらいことや苦しいことがあったと思います。しかし、そうした困難を乗り越えて、皆さんは本当に良く頑張りました。特に、この1年間、連日、医療現場での厳しい環境や状況が報道され、使命感を持って奮闘する医療従事者の姿を見ながら、それに心が押しつぶされることなく、強い意志と高い志を持ち続け医療の世界を目指し、本学の学生となったことに、心からお祝いを申しあげます。私たち教職員一同は、大変嬉しく、また頼もしく思っているところです。本学では、これまで幸いにも、感染者のクラスター発生はありませんでした。入学後は学生の皆さんも医療人を目指す者として細心の注意を払い、自分の体調を管理しながら生活してください。高学年の学生は医療現場での実習が始まっていますが、それぞれにワクチン接種がされますので安心して実習に臨んでもらいたいと思っています。

昨年のこの時期、初めて遭遇したウイルスのパンデミックに、教職員もどのように対処したらよいのか、誰も分からない状況でした。そして、本学でも授業は全てオンラインとなり、学生のキャンパスへの立入は禁止されました。しかし、今、感染を防ぐための方法を徐々に学習し、昨年後期

より対面授業とオンライン授業を併用し、できる限り学生とコミュニケーションを取りながら教育を進めています。この1年、大学では、学生の皆さんがキャンパスで安全に、安心して学べる環境を取り戻そうと、教職員全員が様々な努力を続け、少しずつ対面の授業や実習を増やして来ました。しかし、残念ながらまだまだ制限は続きます。今後は、感染力が強いといわれる変異種との戦いのようです。油断しないで、頑張りましょう。

コロナウイルス感染症のパンデミックは、我々の予想をはるかに越えて、社会生活や行動様式に大きな影響をおよぼし、これまでの日常生活を一変させてしまいました。現在の状況は、まさに医療災害といえるでしょう。コロナ後のことは、今は予測できません。しかし、これまでの生活様式、考え方など、すべての方面においてパラダイムシフトが起きるでしょう。私たちは、このことを念頭に置いて、今後の大学における教育・研究、大学の管理運営などを展望し、進めていかなくてはなりません。ICT(情報通信技術)もウイルスに関連した分子生物学の科学技術も飛躍的な発展が見られるでしょう。また教育分野におけるデジタル化も否応なしに迫ってきています。一方では、少子化もコロナ禍により10年速く進行しそうだといわれています。そういう状況の中で、東北医科薬科大学を前進させ、本学の使命である「地域医療に貢献する」という目標を達成していかなければなりません。これまでの考え方、行動様式にとらわれない、コロナ時代の新しい考えで大学を進めていきましょう。

新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症に対する本学の対応

本学は、長期化するコロナ禍のなかで高等教育機関としての役割を果たすべく、教育研究活動の維持に全学を挙げて取り組んでいます。

学生と教職員が授業や研究等の活動をする際の指針を策定し、「新型コロナウイルス感染症に対応する東北医科薬科大学の

活動指針」として本学ウェブサイトで公表しています。令和3年7月現在、指針はレベル2(要警戒・中程度の活動制限)です。

全学的な指針に加え、各キャンパスに新型コロナ対策本部を設置して、各キャンパスの実状を踏まえたきめ細かい対策を実施しています。

新型コロナウイルス感染症 感染予防ハンドブック～自宅療養をする方へ・同居の方へ～

このハンドブックは、新型コロナウイルス感染症の診断を受けて自宅療養する人と、ご家族を対象にしています。ご自宅で過ごしていただく期間中に気をつけていただきたいこと、感染予防策についてまとめています。

新型コロナウイルス感染症は、私たち人類がはじめて経験する感染症であり、まだまだわかっていないことも多くあります。研究が進む中で、人から人にうつりやすい場面や、それを予防する方法がわかってきました。

新型コロナウイルス感染症は誰でもかかる可能性がある病気で、ウイルスが伝播することで、他の方へ感染が広がっていきます。皆様が感染症の対応と予防について正しく理解した上で安心して生活していただくことを目標に、このハンドブックを作りました。

ご不安に思われている皆様の一助となれば幸いです。

※本ハンドブックの詳細については、東北医科薬科大学病院ホームページをご覧ください。QRコードからもアクセスできます。



監修：賀来 満夫
(東北医科薬科大学医学部
特任教授・東北大学名誉教授)
作成：宮城県新型コロナウイルス感染制御支援チーム
仙台市感染制御地域支援チーム
仙台東部地区感染対策チーム

本ハンドブックは
こちらから



感染症学教室
賀来 満夫 特任教授

保健管理センターの利用

保健管理センターは学生、教職員の心身の健康の維持・向上を支援しています。

体調不良を感じている、持病の管理についての相談や、なんとなく気分が優れないなど学生生活で不安なことがありましたら気軽にご相談ください。学医、臨床心理士、看護師が相談を受けます。また、健康相談やカウンセリングは予約制となっております。事前に入室またはお電話でご予約をお願いします。安心して相談ができるように配慮し、秘密は厳守します。

小松島キャンパス

体調不良や ケガなどの急病	平日 月曜～金曜 8:30～17:00(随時)
学医による医療相談	平日 15:00～17:00 (要予約)
臨床心理士による カウンセリング	平日 15:00～17:00 (要予約)
直通電話 022-727-0054	



福室キャンパス

体調不良や ケガなどの急病	平日 月曜～金曜 8:30～15:30 職員不在時は教務課へ 問い合わせてください
学医による医療相談	掲示により確認
精神科医師による カウンセリング	申し込み方法 1階学生相談室前に設置 された申し込み用紙に記 入し、相談ポストへ投函。 (実施時期要確認)
直通電話 022-290-8865	

学生相談室の対応

小松島・福室の両キャンパスでは毎週月曜日に「学生相談室」を開室しています。薬学部、医学部、教養教育センターの教員が相談員となり、勉強や友人、将来のことなど様々な相談に応じています。新型コロナウイルスが蔓延し、なかなか人と会うことができない中で、できれば画面越しではなく、直接人と会って話したいという方もいると思います。学生相談室ではアクリル板の設置など感染対策も行っておりますので、対面でお話しすることも可能です。もし、何か相談したいことあれば、気軽に学生相談室を利用してください。

なお、相談を希望する場合は、事前に予約が必要です。予約方法や相談担当者については、本学ホームページ掲載の「学生相談室だより」をご覧ください。

本学ホームページのサポート体制ページ

<https://www.tohoku-mpu.ac.jp/campus/support/>



大学関係

令和2年度大学機関別認証評価の認定

学校教育法により7年に1回の受審が義務付けられている大学機関別認証評価について、本学は令和2年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による認証評価を受審しました。その結果、令和3年3月16日に「公益財団法人日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合している」と認定されました。

その中で、本学の伝統ある薬学教育と新たな取り組みである医学

教育との連携を活かした人材育成、東日本大震災からの復興をはじめとする東北地方への地域貢献などに高い評価をいただきました。

本学は、外部機関からいただくご指摘や評価を真摯に受け止め、自らの点検及び評価の過程で明らかになった課題に対しても改善方針に積極的に取り組み、教育・研究・診療及び社会貢献活動の更なる充実のために、一層の努力を続けてまいります。

令和3年度入学宣誓式挙行

令和3年度入学宣誓式を、4月6日(火)本学小松島キャンパスにおいて挙行了しました。式典は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、保護者の参加が見送られ、メイン会場の入学宣誓式の様子を各講義室に控えている新入生へ映像配信する形での開催となりました。今年度は、学部入学生432名(医学科100名、薬学科306名、生命薬科学科26名)、大学院入学生9名(薬科学専攻博士課程前期課程5名、薬科学専攻博士課程後期課程3名、薬学専攻博士課程1名)の新入生を迎えました。



令和3年度入学宣誓式の様子



新入生オリエンテーション

令和3年度の新入生オリエンテーションを、4月5日(月)～8日(木)の計4日間、感染防止策を徹底し小松島キャンパスで実施しました。

薬学部においては、組担任との顔合わせや自己紹介、学部全体説明会のほか、公式メールの使い方、遠隔授業を見越してのPCの基本的な操作説明(任意参加制)など、コロナ禍に即した内容を含めてのオリエンテーションとなりました。

医学部においては、例年どおり新入生に対してノートパソコンの貸与を4月5日(月)に行い、貸与されたノートパソコンを使用して遠隔にて教務・学生生活に係るオリエンテーションも実施しました。

まだまだ感染状況は予断を許しませんが、学生の皆さんの充実した学修に向けて、教職員一同サポートして参ります。



新入生オリエンテーションの様子

令和2年度卒業証書授与式挙行

令和2年度薬学部卒業証書・学位記並びに大学院学位記授与式を、3月10日(水)本学小松島キャンパスにおいて挙行了しました。昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、メイン会場の授与式の様子を各講義室に控えている卒業生



理事長・学長から学生代表に学位記授与

へ映像配信して行いました。学部卒業生は、薬学科244名、生命薬科学科22名。大学院修了者は、薬科学専攻博士課程前期課程7名、薬科学専攻博士課程後期課程2名、薬学専攻博士課程4名でした。



映像配信による式の様子

生命薬科学科卒業研究優秀発表賞受賞者決定

例年、2月に開催している薬学部生命薬科学科4年次の卒業研究発表会において、優秀な研究発表を行った学生に対し、優秀発表賞を授与しております。

令和3年2月8日に開催した卒業研究発表会においては、優秀な研究発表を行った下記2名に対し、学長より賞状と記念品が贈られました。

【創薬科学コース】

氏 名 小山 泰成(薬理学教室)

論文題名 「脳内アンジオテンシン変換酵素2活性化による抗うつ作用とその機序解明」

【生命科学コース】

氏 名 武山 亜美(感染生体防御学教室)

論文題名 「ユビキチン様タンパク質SUMOの葉酸代謝酵素ALDH1L1およびALDH1L2への結合解析」



2021オープンキャンパス

6月12日(土)、13日(日)に小松島キャンパスで薬学部、医学部のオープンキャンパスを開催いたしました。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のため人数を制限(完全予約制)し、換気やソーシャルディスタンスの確保などの対策を徹底して開催いたしました。今年度は薬学科や医学科とともに初めて生命薬科学科単独の説明会を実施。また、薬学部の卒業生を迎えてのミニシンポジウムや両学部の模擬講義、医学部入試説明会などを実施しました。参加者からは「来場型のオープンキャンパスに参加できて良かったです。モチベーションアップにつながりました。(昨年オンラインで参加)」 「ミニシンポジウムで実際に現場で働いている卒業生の話が聞けてためになりました。」 「資料などでは分からないようなことを詳しく知ることが出来てとても良かったです。」 など嬉しい声を聞くことができました。



学生関係

特別奨学金について(薬学部対象)

平成24年度より、学業成績の向上及び学業を奨励することを目的に特別奨学金制度を設け、本学の入学試験において特に優秀な成績により入学した者及び在学生で特に優秀な学業成績を修めた者に対し奨学金を給付しています。

特別奨学金の採用人数及び給付額は、次のとおりです。

○新入生

薬学科……………学校推薦型選抜(公募制)6名、
一般選抜(前期)12名、給付金額40万円

生命薬科学科…一般選抜(前期)2名、給付金額35万円

○在学生

薬学科……………各学年18名、給付月額2万円(年額24万円)

生命薬科学科…各学年2名、給付月額2万円(年額24万円)

令和3年度においては、5月に特別奨学金採用候補者118名を決定。5月28日(金)に採用候補者決定通知書を送付し、給付希望を確認したうえで採用者を決定しました。例年は6月下旬に特別奨学金採用証の交付式を行っていましたが、前年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から交付式を中止とし、採用証を採用者へ郵送いたしました。

令和2年度奨学金受給状況について(停止中も含む・留学生除く)

※対象外 令和3年3月4日現在

奨学金名	大学(薬学部)						大学(医学部)					大学院						合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	4年	5年	計	M.C1年	M.C2年	D.C1年	D.C2年	
日本学生支援機構 第一種	67人	63人	77人	59人	58人	57人	381人	13人	15人	16人	22人	11人	77人	0人	3人	0人	0人	4人
日本学生支援機構 第二種	134人	97人	100人	107人	85人	90人	613人	21人	21人	20人	31人	23人	116人	0人	0人	0人	0人	729人
日本学生支援機構 給付奨学金	28人	21人	22人	13人	13人	8人	105人	2人	2人	3人	8人	5人	20人					125人
東北医科薬科大学特別奨学金	20人	20人	20人	21人	18人	18人	117人											117人
高柳奨学金	6人	10人	14人	15人	12人	5人	62人							1人	1人	0人	0人	2人
修学資金A方式								35人	35人	36人	34人	35人	175人					175人
修学資金B方式								21人	20人	19人	21人	17人	98人					98人
亀井記念財団奨学金	0人	2人	4人	3人	1人	6人	16人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	17人
交通通児育英会奨学金	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人
あしなが育英会奨学金	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	1人	3人					3人
八戸市奨学金	0人	1人	0人	0人	0人	1人	2人	0人	0人	0人	0人	0人	0人					2人
蒲谷町奨学金	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人
ひかり薬局奨学金	0人	0人	2人	2人	1人	2人	7人											7人
河内奨学金	2人	1人	1人	2人	1人	1人	8人											8人
社の邦育英会	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人
鈴木万平記念薬学奨学金	0人	0人	0人	0人	1人	1人	2人											2人
川野小児医学奨学金								0人	0人	0人	2人	0人	2人					2人
朝鮮奨学会奨学金	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人					1人
つくし奨学・研究基金														1人	0人	0人	0人	3人
合計	257人	215人	241人	223人	191人	189人	1316人	93人	95人	119人	92人	492人	2人	4人	0人	0人	3人	1817人
併用者	72人	57人	62人	54人	51人	38人	334人	18人	24人	20人	34人	25人	121人	0人	0人	0人	0人	456人
実質奨学生数	170人	143人	160人	152人	133人	137人	885人	69人	62人	65人	67人	59人	322人	2人	4人	0人	0人	125人
在籍学生数	360人	316人	368人	317人	297人	282人	1940人	103人	101人	100人	98人	95人	497人	3人	7人	1人	3人	2457人
奨学生の割合	47%	45%	43%	48%	45%	49%	46%	67%	61%	65%	68%	62%	65%	67%	57%	0%	0%	50%

医薬連携

医薬研究交流事業

医薬融合研究の推進の一環として、研究マッチングイベントを実施しました。

昨年末より、共同研究提案シートならびに共同研究提案PR動画を募集しました。

ご覧のように、両学部より16件の共同研究提案がありました。電子掲示板に“研究シーズ”の項目を設け、大学内の教職員向けの共同研究提案PR動画が視聴できます。このPR動画から、新たな共同研究が生まれつつあります。今後も、定期的に研究マッチングイベントを企画して参ります。

共同研究提案一覧

NO	学部	氏名	研究テーマ
1	薬学部	井ノ口 仁一	生活習慣病・慢性/急性炎症性疾患の新規診断・治療法の開発
2	薬学部	藤村 務	マルチオミクス解析を利用したバイオマーカーの探索および電気化学センサー(バイオセンサー)の開発
3	薬学部	丹野 孝一	糖尿病性神経障害性疼痛における脊髄アンジオテンシン系の関与の解明ー新たな治療戦略を目指してー
4	薬学部	細野 雅祐	動物レクチンの抗腫瘍メカニズムの解明とがん薬物治療への応用
5	薬学部	山口 芳樹	糖鎖・複合糖質・糖鎖関連分子の構造と機能の解明
6	薬学部	顧 建国	がんや脳神経疾患などにおける糖鎖変化とその意義に関する研究
7	薬学部	渡部 俊彦	高い教育効果をもつ講義方法の開発
8	薬学部	小林 匡子	妊産性を改善する手法を開発する
9	薬学部	西川 陽介	イミノ糖の生物活性に関する研究
10	医学部	名取 良浩	ウイルスゲノムDNAのクローニング、ウイルスゲノム・蛋白質の核内動態
11	医学部	神田 輝	ウイルスゲノムDNAのクローニング、ウイルスゲノム・蛋白質の核内動態
12	医学部	生田 和史	消毒剤・加工素材・医薬品候補物質などにおける抗ウイルス効果の検討
13	医学部	高橋 伸一郎	急性骨髄性白血病に対する効果的な治療法の開発
14	医学部	渡部 剛	18F-FDGを用いた乳癌手術～低侵襲、機能温存を目指したナビゲーション手術を目指して～
15	医学部	渡部 剛	間葉系幹細胞培養上清を用いた乳癌細胞株作成システムの構築
16	医学部	渡部 剛	蛍光免疫染色を用いたBRCA変異予測
17	医学部	渡部 剛	HBOCモデルマウスの臓器特異的乳癌発がんエストロゲンの関連

薬学部生による医学部解剖学実習見学(医療倫理入門)

医療倫理入門は薬学科3年次前期の科目であり、医療人としての倫理規範や患者の信頼を得ることの重要性、薬害を防止するための薬剤師の役割等について、テーマの選定や調査を行い、自分なりの考察を入れてまとめを行っています。

また、医療倫理入門の中で医学部生が行っている解剖学実習

の見学を行っておりますが、今年度は感染予防から薬学部生のみでの見学を行うことになりました。見学は胸部と腹部の解剖時に実施していますが、実際に見て触れてみることで、教科書だけの学習では得られない貴重な知識を得ることができるだけでなく、一人ひとりが異なることなどを実感できる貴重な体験となっています。

薬学部長挨拶



薬学部長
柴田 信之

コロナ禍は2年目に入ってしまいましたが、今年度は講義室に分散して出席することで昨年できなかった入学式および各学年のオリエンテーションを実施することができ、講義スケジュールとしてはほぼコロナ禍前の時間割に戻り教育研究が進められています。しかし、密となる環境の回避が必要であるため講義室定員の

50%で対面講義を行い、実験実習も以前の50%の人数で実施しているため、遠隔授業も併用せざるを得ない状態は続いています。

1、2年生はクラスの限られた学生としか会話ができず部活も再開できないため、友人の輪を広げることが難しい状態です。しかし、学生にとってキャンパスライフは講義の受講だけではありません。大学のロゴマークにも松の葉のシルエットがあらわれているように、教育理念の1つは瞑想の松がシンボルとなっている「友情を育み人間形成に務める」です。今後、できるだけ早くその環境を取り戻して行き、医療関連職種に求められる専門的知識だけでなく、人間力を高め隠れた能力を開花させるための教育にも力を入れたいと考えています。

遠隔授業、対面授業の実施状況

薬学部では、4月12日より前期授業が始まりました。宮城県独自の緊急事態宣言が発出されていたため、4月12日～23日まではやむなくオンデマンド配信による遠隔講義を行い、4月26日より対面講義を開始しました。新型コロナウイルス感染症対策(教室・実習室内の常時換気、入室時の手指消毒、マスク着用の徹底等)を厳密に講じ、隔週登校にて対面講義を実施しています。なお、学内実習については、少人数単位での実施が可能かつ午後からの実施であることから、当初より対面にて実施しています。今後も、感染防止対策と対面授業をベースとした学修機会の確保を念頭に置き、教職員一丸となってコロナ禍での授業の運営に努めて参ります。



対面授業の様子

第106回薬剤師国家試験結果

第106回薬剤師国家試験が2月20日(土)、21日(日)の両日全国9地区を会場として実施され、3月24日(水)に厚生労働省より結果が発表されました。本学の新卒は244名が受験し194名が合格、合格率は79.51%でした。

第106回薬剤師国家試験結果

	新卒			6年制既卒			その他(旧4年制卒)			総計		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
本学	244	194	79.51%	106	52	49.06%	6	0	0.00%	356	246	69.10%
私立大学	8,015	6,821	85.10%	4,967	2,054	41.35%	142	16	11.27%	13,124	8,891	67.75%
全大学(国公立)	8,711	7,452	85.55%	5,035	2,079	41.29%	285	103	36.14%	14,031	9,634	68.66%

今年度も国家試験対策として次のような補講や演習を行っていく予定です。

- ①4月8日～6月30日(41日間) 基礎学力演習(対面講義)
- ②8月4日～8月9日(6日間) 夏期講習会(希望者)
- ③10月18日～11月19日(25日間) 国試対策特別補講I
- ④2月9日、10日、13日～16日(6日間) 国試対策特別補講II(希望者)
- ⑤4月14日、8月19、20日、10月4、5日、11月22、24日、1月24、25日 模擬試験(第1回～第5回)

模擬試験の結果については、受験生本人だけではなく保証人様宛にもお送りします。国家試験受験に際しての参考にさせていただければと思います。

生命薬科学科新カリキュラム2021

生命薬科学科では、令和2年度入学生より新カリキュラムを導入しました。新カリキュラムでは、専門科目単位の約1/3を選択必修科目から選択するため、学生が主体的に自分の将来設計に適合した科目を選んで単位を取得できるようになりました。選択必修科目として、新科目である「細胞工学概論」や「実験動物学」が、既に本年度2年次前期から開講されています。また2年次後期には、新科目である「酵素生物学」、「分子細胞生物学」の他、「生体分子構造学」、「放射化学」が開講されます。3年次以降も、「分子標的薬概論」や「ゲノム情報学」など、最先端の新科目を配しています。新カリキュラムを通し、今後も様々な分野で活躍出来る多様な人材の育成を目指していきます。

専門職連携教育(IPE)

新型コロナウイルスの影響で宮城大学看護学群との連携教育は実施できませんでしたが、今年2月には東北文化学園大学、仙台白百合女子大学、本学薬学部の学生が遠隔で参加しグループに分かれて模擬症例検討会を行いました。参加した学生の専攻は、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、社会福祉士、精神保健福祉士、臨床工学技士、管理栄養士、そして薬剤師です。参加した学生からは「患者だけでなく、患者の周りの環境も含めて事例を見ている職種もあった」「専門が異なると違う視点からの意見が出て、患者にとってより有意義な解決策を提案できると感じた」と、IPEに参加した感想が寄せられています。今後もこの教育を拡充して行く予定です。

白衣授与式

2月16日(火)、薬学部薬学科新5年次生を対象に白衣授与式を開催しました。

薬学部薬学科では、5年次に病院や薬局の現場において実務実習を行います。この実務実習に先立ち、新5年次生を対象に白衣が授与されました。今年度の白衣授与式は、コロナ禍ということもあり、感染防止対策を講じた上で式典会場から3つの教室へリアルタイム配信形式にて実施しました。

式典会場から高柳理事長・学長が「コロナ禍の状況において、実習を受け入れて下さった医療スタッフや患者さんへの感謝の気持ちを忘れず、多くのことを学び、感じて帰ってきて欲しい。皆さんの実習が実り多きものであるよう祈っています」と激励の言葉をおくりました。

続いて実習生代表2名へ白衣が手渡され、各教室に配信された合図に合わせ、全員が本学のロゴ・大学名が入った白衣に袖を通しました。その後、実習生代表2名から決意表明が述べられ、閉会となりました。



実務実習について

令和元年度より、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠し、成果基盤型教育(OBE: Outcome Based Education)が取り入れられたパフォーマンス評価を行う病院・薬局実務実習が実施されています。その中では代表的な8疾患が挙げられており、高血圧症や免疫・アレルギー疾患患者は薬局が多く、がんや脳血管疾患患者は病院が多いため、お互いに補い合う形でより多くの疾患に関わることが可能となりました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の予防のため、一部に遠隔実習というこれまでにない形態を取り入れていますが、学生は実際の感染予防を体験できるなど、これまでにない貴重な経験をしながら実務実習に取り組んでいます。

共用試験(CBT、OSCE)について

薬学共用試験は、薬剤師免許をもたない学生が薬局・病院での体験型実務実習に臨むため一定の技量を持つことを示す試験です。薬学の「知識」を問うCBT (Computer-Based Testing) と調剤などの「技能」や患者対応の「態度」を評価する実地試験OSCE (Objective Structured Clinical Examination) からなります。

令和2年度本学では、薬学科4年生を対象にOSCE本試験は12月12・13日、再試験は令和3年2月17日に、CBT本試験は令和3年1月7・8・9日、再試験は2月26日に行われました。密にならないように最大限の配慮の上実施し、最終的に両試験とも292名が合格しました。

TBL(アドバンス薬学演習)について

TBLとは、Team-Based Learning(チーム基盤型学習)の略で、能動的学習力の向上に焦点を当て、さらにグループで協働して互いに教えあう能力を培う少人数チーム学習の教育法です。本学では、既に薬学科5年次に開講している、PBL(Problem-based Learning: 問題解決型学習)に加え、令和元年度よりTBL学習を導入しました。本学のTBL学習は、これまで学んできた薬学の基礎4分野(物理化学・分析化学、化学、生物、衛生)の知識を再確認すると共に、それに薬物療法に関わる知識を統合して活用する実践的能力を修得すること、また、演習等でのグループ学習を通じ、薬剤師として自己研鑽を続けることができる態度を身につけることを主たる目標としています。学生はグループに分かれて、分野ごとに教員より与えられた薬学の基礎分野に関する課題に対し、

様々な視点からの問題点の発掘と課題解決のための討議を行い、その検討結果に基づいて課題に関連した問題とその解説を作成します。その後、グループ毎に作成した問題と解説のプレゼンテーション、学生同士による質疑応答、さらに教員によるフィードバックを経て能動的な学習を繰り返します。学生は、教員が提示した課題に対する問題点の抽出や解決策を模索することで、最終的に課題の本質を的確に捉えて、フレキシブルに対応する能力を身につけていきます。

令和2年度のTBL学習は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、Zoomを利用した遠隔討議・プレゼンテーションとなりましたが、学生は久しぶりの仲間とのオンライン交流を楽しみつつ、真剣にTBL学習に取り組んでいる様子でした。

早期体験学習

薬学科では1年次に早期体験学習として薬学入門演習が開講されています。例年は、サリドマイド被害者である増山ゆかり先生(財団法人いしずえ)を講師に招いた薬害講演会やハンディキャップ体験など行っていましたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、外部講師の招聘や学生同士が接触する体験学習は中止となりました。このような状況ではありますが、学生はエイズ被害の記録映画を用いて薬害を学び、学生同士の接触を伴わない方法

で半身麻痺、視覚障害、聴覚障害などのハンディキャップ体験を行っています。体験中の学生達の顔はマスクとフェイスシールドで覆われていましたが、瞳はキラキラ輝いていて、学び意欲に溢れていました。



進級基準について

薬学部の進級基準は下記のとおりです。なお、各学年の進級基準は入学年度によって異なりますので、ご注意ください。

「令和2年度以降の入学生」

1. 薬学科1～2年次、生命薬科学科1～2年次

○当年次における実習の科目を除く必修科目の未修得単位が4単位以内であること。

ただし、薬学科2年次、生命薬科学科2年次においては、前年次における欠単位は、当年次欠単位に含め4単位以内であること。

○当年次における実習の科目をすべて修得すること。

●GPA進級基準値

必修科目の進級条件(必修科目の未修得単位が4単位以内)を満たしていない場合でも、**未修得単位が6単位以内であり、かつGPAの数値が基準値を上回っていれば進級**とします。

基準値は、当該学年履修科目全体の**年間GPA1.500以上**とします。

GPA制度について(学生便覧より一部抜粋)

本学の薬学部では、令和2年度入学生よりGPA(Grade Point Average)制度の導入を行いました。

GPA制度とは、各授業科目の成績を5段階のグレード「S(秀)、

A(優)、B(良)C(可)、F(不可)」で評価し、各成績評価段階(評点)に4～0のGPを付与して、1単位あたりの評定平均値(GPA)を算出する制度です。

GPAは修得単位数という「量」だけでなく、成績評価に基づく「質」を表しています。

GPAの導入により、学期毎の学修成果と学修の状況がより明確になり、学修意欲の向上、無理な履修計画や安易な履修登録の自己規制につながることを目的としています。

●成績評価(区分、グレード、評点、GP)

区分	グレード	評点	GP
合 格	S(秀)	100点～91点	4
	A(優)	90点～81点	3
	B(良)	80点～71点	2
	C(可)	70点～60点	1
不合格	F(不可)	59点～ 0点	0
	欠席	—	
	資格無	—	

欠単位は、当年次欠単位に含め4単位以内であること。

○当年次における実習の科目をすべて修得すること。

2. 薬学科4年次、生命薬科学科3年次

○上記1の条件の他、2年次までの全ての必修科目及び総合科目中の卒業要件である選択必修科目を修得すること。

また、薬学科4年次においては、薬学共用試験に合格すること。

「平成27年度～31年度の入学生」

1. 薬学科1～5年次、生命薬科学科1～3年次

○当年次における実習の科目を除く必修科目の未修得単位が4単位以内であること。

ただし、薬学科2～5年次、生命薬科学科2～3年次においては、前年次(薬学科4年次においては、3年次配当科目のみ)における

「平成24年度～26年度の入学生」

1. 薬学科1～5年次、生命薬科学科1～3年次

○進級には各学年において、その年次における実習の科目を除く必修科目の欠単位が4単位以内でなくてはならない。ただし、前年次における欠単位は当年次欠単位に含め4単位以内でなくてはならない。

○実習の不合格者は原則として進級することができない。

2. 薬学科4年次、生命薬科学科3年次

○薬学科4年次においては、上記1の条件の他、4年次までの必修科目をすべて修得しなければならない。

○生命薬科学科3年次においては、上記1の条件の他、最終試験終了時において2年次までの単位をすべて修得していない場合は4年次に進級することができない。

薬学部 後期行事予定

8月	
8月23日(月)～11月7日(日)	薬学科5年次実務実習(第Ⅲ期)
9月	
9月7日(火)～9日(木)	薬学科4年次CBT体験受験
9月10日(金)	後期授業開始
10月	
10月2日(土)	二松会総会、在学生保護者教育懇談会(仙台)
10月4日(月)、5日(火)	薬学科6年次薬剤師国家試験対策第3回模擬試験
10月6日(水)～	薬学科6年次薬剤師国家試験対策模擬試験 弱点補講(オンデマンド配信)
10月9日(土)、10日(日)	大学祭
10月18日(月)～11月19日(金)	薬学科6年次国試対策特別補講I
10月16日(土)、17日(日)	在学生保護者教育懇談会(青森、秋田)
11月	
11月6日(土)・13日(土)	薬学科1・2年次、生命薬科学科1・2年次中間試験
11月11日(木)	薬学科4年次薬学実力試験(CBT対策)
11月22日(月)～2月13日(日)	薬学科5年次実務実習(第Ⅳ期)
11月22日(月)、24日(水)	薬学科6年次薬剤師国家試験対策第4回模擬試験
11月25日(木)～	薬学科6年次薬剤師国家試験対策模擬試験 弱点補講(オンデマンド配信)
11月30日(火)	第二期授業料等納付金納入期限

12月	
12月11日(土)、12日(日)	薬学科4年次薬学共用試験(OSCE)
12月23日(木)	後期授業終了
12月24日(金)	冬季休業(1月5日まで)
1月	
1月6日(木)～8日(土)	薬学科4年次薬学共用試験(CBT)
1月7日(金)～20日(木)	後期試験(薬学科4年次:1月12日～19日)
1月28日(金)	後期成績Web公開、後期フォローアップ オリエンテーション(薬学科4年次のみ)
2月	
2月3日(木)	後期成績Web公開(薬学科4年次以外)
2月10日(木)～18日(金)	後期追・再試験(薬学科4年次:2月3日、7日～14日)
2月15日(火)、17日(木)	実務実習事前講習会(薬学科4年次)
2月16日(水)	薬学科4年次薬学共用試験(OSCE追・再試験)
2月下旬	第107回薬剤師国家試験
2月25日(金)	薬学科4年次薬学共用試験(CBT追・再試験)
3月	
3月8日(火)	令和3年度学部卒業証書・学位記授与式 並びに大学院学位記授与式
3月15日(火)	進級判定
※新型コロナウイルス感染症の影響により変更となる場合があります	

医学部長挨拶



医学部長
福田 寛

医学部は開設6年目を迎え全学年が揃いました。いよいよ来年は一期生が国家試験を受験しますが、全員合格することを目指して、昨年度から対策を始めています。

さて、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症が拡大し、一時は宮城県の発症率が全国一となり、まん延防止等重点措置が発令される事態となりました。幸い、現在は宮城県の数値は落ち着いており、感染予防対策を徹底しながら、対面とオンライン交互の

組み合わせ講義、対面での実習などを実施しています。また、病院における臨床実習は一時中断がありましたが、現在は再開しています。昨年度は教員も学生も手探りであったオンライン講義も使用経験を重ねて習熟してきています。ネットワーク環境や通信機器、オンライン授業を録画してオンデマンドの教材とするシステムなどハード面も整備されました。このような状況下で友人や教員との接触が少ない状態が続いており、学生のメンタル面への見守り・支援は大変重要です。特に、入学以来対面での接触が少なかった、現2年生、1年生については、オンライン(必要に応じて対面)での組担任との面談などを実施しております。1日も早くこの状態が終息して、お互いの顔が見える教育が再開できることを祈願しております。

遠隔授業、対面授業の実施状況

コロナ禍において、医学部では学生の安全を第一に考えつつ、可能な限り教育の質をおとさずに全学生の学習機会を確保することを目標に掲げ、昨年の前期はすべて遠隔(Zoom)で授業を行いました。今年度は、感染状況に応じて対面授業と遠隔(Zoom)授業を併用で行っています。対面授業の実施にあたり、登校する学年や動線をわけて感染防止対策を実施しています。さらに学生

の健康管理の一環として構築した検温報告システムを活用し、学生からの日々の検温報告をもとに保管管理センターによる学生の健康管理を徹底しています。今後も安全を最優先に学生の学びを止めることがないよう、教職員一丸となって日々学生の支援を行ってまいります。



整形外科教室 小澤浩司教授による3年次「整形外科学」の講義風景

臨床実習について

5月31日(月)から医学部医学科6年次学生は、地域医療ネットワーク病院を中心とした学外施設での臨床実習「地域総合診療実習」「地域包括医療実習」が始まります。実習期間は6週間、2年次、3年次の体験学習で訪れた学外施設を中心に、連続してその地域に滞在します。地域の社会・生活環境、また地域の医療ニーズを深く理解し、地域医療を支えるための総合診療力の基本的な知識、技能および態度を修得することが目的です。

急性期から慢性期までの総合診療を特長とする地域医療、介護、福祉、保健、行政を含んだ地域包括医療を学び、介護・在宅関連の事業所では医師の業務に参加しながら、行政と連携した保健、福祉、医療および介護活動を体験します。

本実習は本学医学部の地域医療教育および臨床実習の総仕上げの科目です。医師になるための土台作りの期間として、実りある実習となるよう期待しています。

共用試験(CBT、OSCE)について

医学部の共用試験は、次の2つの部分から構成されます。

ひとつは、医師の資格を有していない医学生が診療参加型臨床実習で医行為を行うにあたり、それを許容できる能力や適性を有していることを評価するCBT、臨床実習前OSCEがあります。

4年次後期から開始となる「診療科臨床実習」、6年次前期の「地域総合診療実習」「地域包括医療実習」を履修するためには、CBT及び臨床実習前OSCEの両方に合格しなければなりません。

もうひとつは、医学生が診療参加型臨床実習により、医学部の卒業を許容できるレベルの臨床能力を修得していることを評価する臨床実習後OSCEがあります。

今年度(令和3年度)は下記のとおり実施される予定です。

CBT	本試験	8月21日(土)
	追再試験	9月11日(土)
臨床実習前OSCE	本試験	8月28日(土)
	再試験	9月4日(土)
	追試験	9月25日(土)
臨床実習後OSCE	本試験	11月6日(土)・7日(日)
	追再試験	11月23日(火)

東北大学白菊会について

令和3年3月16日(火)に、仙台葛岡霊園東北大学納骨堂において、納骨式が執り行われました。これは解剖学実習に供された方のご遺骨のうち、大学への納骨を希望された方のご遺骨を納骨堂に納めるもので、東北大学医学部、歯学部及び本学の解剖学担当教員、技術職員、事務職員が出席し、成願者(納骨者)の拝読の後、拝礼を行いました。引き続き、東北大学星陵キャンパスにあ

る「献体の碑」にて「成願者芳名録奉納式」が行われ、白菊会常任理事・大和田裕二教授のご挨拶のあと芳名録を奉納し、改めて故人の崇高なご意志に敬意を捧げるとともに御霊のご冥福をお祈りしました。

なお、例年5月下旬に開催している東北大学白菊会総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

大学院医学研究科の設置について

平成28年に、我が国で37年ぶりに開設された医学部は、地域医療への貢献を果たすよう、来年3月に第一期生の卒業を控えています。

このたび、本学の教育理念及び地域医療を支える医学部の使命を基礎に、「人材養成を学部レベルから大学院レベルに高度化し、地域医療の課題を解決できる人材の育成」を主な設置の趣旨として、本学大学院に医学研究科を設置することといたしました。

また、本研究科が養成する人材像は、「地域医療における課題を発見・解決し、医療・健康・福祉の発展を通し持続可能な社会を構築するために、疾患病態の基盤解明、先進的な知見の臨床応用、次世代地域医療の課題解決そして生命科学の学際的研究と

その応用を可能ならしめる多様な知のプロフェッショナルとしての人材」とし、地域医療への貢献及び医薬融合研究の推進等、本学の特色・個性を反映させたものとなっています。

なお、既に文部科学省に設置認可申請書を提出しており、8月末に認可の可否について、結果が提示される予定です。設置認可後には、来年4月の開設に向けて、正式な学生募集を開始いたします。

関係者の皆様におかれましては、本学のさらなる発展のため、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

※設置認可申請中であり、計画が変更になる場合があります。



進級基準について

医学部の進級は、下記の医学部履修規程第12条に基づきます。各学年において進級条件を満たさない場合は、原級に留めます。

なお、定期試験及び追再試験不合格の場合は、進級判定試験(3月上旬～中旬)を行うことがあります。判定試験対象者には、組担任から学生本人に知らせるとともに、文書により保証人に通知します。

(医学部履修規程より抜粋)

第12条 医学部における進級の条件は、次のとおりとする。

(1) 1年次から2年次への進級

ア 履修する必修の全ての授業科目の単位を修得すること。

イ 履修する選択必修の授業科目のうち、基礎教養の外国語の科目について、同一語学の科目を2単位以上修得すること。

ウ 履修する選択必修の授業科目のうち、基礎教養の外国語以外の科目について、4単位以上修得すること。

(2) 2年次から3年次への進級

ア 履修する全ての授業科目の単位を修得すること。

(3) 3年次から4年次への進級

ア 履修する全ての授業科目の単位を修得すること。

(4) 4年次から5年次への進級

ア 履修する必修の授業科目のうち、臨床実習以外の全ての科目の単位を修得すること。

イ 履修する選択必修の授業科目のうち、1単位以上修得すること。

ウ 履修する臨床実習について、4年次の1月末までの学修成果の評価が、臨床実習成績判定委員会において合格の判定を受けていること。

(5) 5年次から6年次への進級

ア 履修する臨床実習について、5年次の1月末までの学修成果の評価が、臨床実習成績判定委員会において合格の判定を受けていること。

2 前項各号に定められた全ての条件を満たさない場合は、原級に留める。

3 原級に留まった者の既修得単位は、認める。

4 進級は、教授会の意見を聴いて、学長が認定する。

医学部 後期行事予定

8月

8月21日(土)	共用試験CBT本試験
8月28日(土)	共用試験Pre-CC OSCE本試験
8月30日(月)	1年次・2年次後期授業開始
8月30日(月)～9月3日(金)	1年次後期選択必修科目履修登録期間

9月

9月27日(月)	3年次・4年次・5年次・6年次後期授業開始
----------	-----------------------

10月

10月1日(金)	白衣授与式
10月2日(土)	二松会総会在学生保護者教育懇談会(仙台)
10月9日(土)・10日(日)	大学祭
10月16日(土)	在学生保護者教育懇談会(東京)
10月20日(水)	東北大学・東北医科薬科大学合同慰霊祭・遺骨返還
10月22日(金)	卒業試験(1回目)

11月

11月6日(土)・7日(日)	6年次共用試験Post-CC OSCE本試験
11月30日(火)	第二期授業料等納付金納入期限

12月

12月17日(金)	卒業試験(2回目)
12月25日(土)～1月4日(火)	1年次・2年次冬季休業
12月25日(土)～1月3日(月)	3年次・4年次・5年次・6年次冬季休業

1月

1月5日(水)～12日(水)	1年次後期定期試験期間
1月14日(金)～21日(金)	3年次後期追再試験期間
1月26日(水)	卒業判定

2月

2月5日(土)・6日(日)(予定)	第116回医師国家試験
2月7日(月)～15日(火)	1年次後期追再試験期間
2月28日(月)～3月9日(水)	1年次・2年次・3年次進級判定試験実施期間

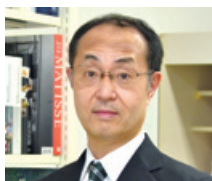
3月

3月8日(火)(予定)	令和3年度卒業証書・学位記授与式
3月17日(木)	進級判定
3月(未定)	第3回オープンキャンパス
※定期試験・追再試験は、設定された試験期間または適宜実施されます。	



教養教育センターより

教養教育センター長挨拶



教養教育センター長
家 高 洋

教養教育センターは薬学部と医学部の教養教育を担っており、各専門分野(英語学、独語学、哲学、法学、心理学、体育学、数学、物理学等)の教科ならびに薬学部薬学科と医学部の「大学基礎論」を担当しています。本年3月に英語学教室の小島良一教授が退職され、4月1日付けで野中泉教授が着任しました。野中教授の専門は英語音声学であり、代表的な著作は『英語舌のつくり方:じつはネイティブはこう発音していた!』(研究社)です。長年医学英語教育に携わってきた野中教授の今後の活躍が大いに期待されます。

ところで、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のために、昨年度の多くの授業は遠隔授業となりました。医学部1年前期の「大学基礎論」は「東北の地域の問題を知り、考える」ことをテーマとし、毎年グループ・ワークと調査訪問を行っていましたが、昨年度は両方とも実行できませんでした。そこで、「東北の地域の問題」について個人でWeb等を調べ、Power Pointを使ってZoomで全員が発表することになりました。優れた発表としましては「農業の活性化:山形県鶴岡市『窪畑ファーム』を一例として」、「秋田県大館市の産業の活性化における課題と対策」等がありました。グループ・ワークの代わりに個人ワークを行った結果、昨年よりも各学生のスタディ・スキルが向上したようです。

今年度は基本的に遠隔授業と対面授業が併用される予定ですが、諸般の状況に対応しながらより質の高い教育を行っていきたいと考えています。

物理学教室担当科目紹介

「物理学I」と「物理学II」は、薬学部1年前期と後期(必修)で行われており、薬学を学ぶ上で必要な物理学の知識を修得します。「物理学演習I」と「物理学演習II」は薬学部1年前期と後期(薬学科は選択、生命薬科学科は選択必修)で行われています。高等学校で物理を修得しなかった学生を対象とし、演習問題を通じて物理学の

基礎学力を身に着けます。「基礎物理学」と「基礎物理学実習」は医学部1年前期(必修)で行われています。講義では、医学を学ぶ上で基本となる物理学の素養を身に着け、また医療機器に応用されている物理学の原理について理解します。実習では、講義で学んだ物理学の諸現象を実感し、物理学への理解を深めます。

図書館より

二松会からの図書寄贈御礼

毎年、二松会から本学図書館に図書購入費の御支援をいただいております。昨年12月以降、次の図書を購入しましたのでご報告いたします。二松会・保護者の皆様へ心より御礼申し上げます。

【令和2年12月～令和3年3月末までの購入分】

芥川賞受賞作、直木賞受賞作、本屋大賞受賞作など。
計55種 金額190,938円(年間 計96種 金額500,000円)

令和2年度図書館利用状況・蔵書統計報告

令和3年3月31日現在

	本館	医学分館
開館日数	144日	162日
利用対象者数	4,402人	4,402人
入館者数	2,901人	5,852人
貸出冊数	804冊	3,610冊
貸出人数	372人	1,841人
相互協力(申込)	95件	138件
相互協力(受付)	69件	68件

	年間受入数	蔵書数
図書	2,286冊	121,528冊
電子書籍	1,844冊	11,416冊
雑誌	214種	1,194種
視聴覚	1点	584点

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への対応のため、臨時休館や入館者及びサービス内容を制限し、対策を講じながらの開館となりました。来館に伴う利用状況は全て減少する形となりましたが、以前から電子資料の充実を図っていたこと、また、世界的に在宅での研究・学習への支援が広がったこともあり、自宅からでも利用可能なリモートアクセス機能の整備を図り提供いたしました。その結果、電子ブックの閲覧回数は前年度の約4倍増の利用となり、場所を選ばず、どこにいても学術情報を入手できる非来館型の利用が進んだ形となりました。

今年度においても遠隔授業を実施しておりますので『自宅からでも利用可能な電子リソースに関するお知らせ』を全学生へメールにてお送りしております。

ID/PWの取り扱いには十分ご注意ください。

令和2年度大学院学位記授与関係



令和2年度大学院学位記授与の様子

令和2年9月4日(金)、令和3年2月15日(月)に博士学位論文、2月16日(火)に修士学位論文の最終試験(口頭による論文発表)があり、3名に博士(薬科学)、4名に博士(薬学)、7名に修士(薬科学)の学位記が授与されました。

氏名及び論文題名は次のとおりです。

薬科学専攻博士課程前期課程(7名)

番号	氏 名	教室名	論 文 題 名
1	遠藤 柚季乃	分子薬化学	光学活性な4'-置換スタブジン誘導体の合成と核酸医薬への応用
2	大山 嘉順	細胞制御学	Focal adhesion kinaseのO-GlcNAc修飾による細胞機能への影響
3	佐々木 里菜	医薬合成化学	抗炎症作用を有するクリソゲンエステルの全合成
4	鈴木 郁	分子薬化学	3価の超原子価ヨウ素試薬と(PhSe) ₂ を用いた含窒素複素環化合物の合成法の開発
5	針生 怜	放射薬品学	葉酸修飾ラクトソームの開発と腫瘍認識能の基礎検討
6	分銅 和香	医薬合成化学	抗原虫活性を有するクリスタキセニシンAの全合成研究
7	渡邊 卓	医薬情報科学	抗菌薬経口投与下での殺菌作用を表現する数値モデルを用いた至適投与方法の検討

薬科学専攻博士課程後期課程(2名)

番号	氏 名	教室名	論 文 題 名
1	八木 瑛穂	天然物化学	微生物由来の新しい感染症治療薬の探索研究
2	Buyanmandakh Buyankhishig	生薬学	Studies on phytochemical constituents and biological activity of Mongolian traditional medicinal plants; Oxytropis, Brachanthemum, Calligonum, and Apocynum species

薬学専攻博士課程(4名)

番号	氏 名	教室名	論 文 題 名
1	川上 佳織	病態生理学	アレルギー疾患におけるμオピオイド受容体の一塩基多型の影響と免疫動態に関する基礎的・臨床的研究
2	佐久間 若菜	薬理学	卵巣摘出マウスにおける新規選択的エストロゲン受容体モジュレーター-BE360の抗うつ作用およびその作用機序解明に関する研究
3	山縣 涼太	薬理学	糖尿病性神経障害性疼痛における脊髄内アンジオテンシン変換酵素2の役割の解明ーレプチン欠損2型糖尿病モデルマウスを用いた検討ー
4	宇野 堯	臨床感染症学	Biofilm形成 <i>Staphylococcus aureus</i> に対する <i>in vitro</i> rifampicin併用療法の殺菌および耐性に関する研究

論文博士(博士(薬科学))(1名)

令和2年9月授与

番号	氏 名	専攻科目	論 文 題 名
1	中林 悠	生化学	ヒストンによる染色体分配制御と共通サブユニット機能解析方法の確立

入試センターより

令和3年度入学者選抜結果

薬学部は学校推薦型選抜(指定校制・公募制)を令和2年11月21日(土)に、一般選抜(前期)を令和3年1月23日(土)に、一般選抜(後期)を令和3年2月13日(土)に実施しました。

医学部は一般選抜の一次試験を薬学部一般選抜(前期)と同日の令和3年1月23日(土)に本学の他に東京2会場と大阪、札幌で実施し、二次試験(一次試験合格者のみ対象)を令和3年2月6日(土)、7日(日)に本学で実施しました。

また、新型コロナウイルス感染症対応として追試験を薬学部学校推薦型選抜(公募制)および医学部一般選抜において実施いた

しました。

令和3年度入学者選抜結果は表(1)(2)のとおりです。

医学部入学者選抜結果

表(1)

区 分	内 容	人 数 ※()内は女子の内数					志願 倍率	実質 競争 倍率
		募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数		
令和3年度	一般	100	1,765(612)	1,684(594)	355(120)	100(30)	17.7倍	4.7倍

薬学部入学者選抜結果

表(2)

区 分	内 容	人 数 ※()内は女子の内数					志願 倍率	実質 競争 倍率
		募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数		
薬 学 科	推薦(指定校)	50	44 (31)	44 (31)	44 (31)	44 (31)	0.9倍	
	推薦(公募)	75	125 (80)	125 (80)	95 (63)	95 (63)	1.7倍	1.3倍
	一般(前期)	120	329 (188)	321 (185)	237 (135)	134 (77)	2.7倍	1.4倍
	一般(後期)	32	176 (99)	85 (48)	32 (15)	17 (6)	5.5倍	2.7倍
	共通テ(前期)	15	215 (130)	212 (127)	128 (77)	11 (6)	14.3倍	1.7倍
	共通テ(中期)	5	26 (15)	25 (15)	11 (8)	1 (0)	5.2倍	2.3倍
	共通テ(後期)	3	15 (9)	15 (9)	12 (7)	4 (0)	5.0倍	1.3倍
	計	300	930 (552)	827 (495)	559 (336)	306 (183)		
生 命 薬 科 学 科	推薦(指定校)	10	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	0.3倍	
	推薦(公募)	5	7 (5)	7 (5)	6 (5)	6 (5)	1.4倍	1.2倍
	一般(前期)	15	45 (28)	44 (27)	40 (26)	12 (7)	3.0倍	1.1倍
	一般(後期)	7	14 (9)	4 (3)	3 (3)	1 (1)	2.0倍	1.3倍
	共通テ(前期)	3	34 (17)	34 (17)	26 (13)	1 (0)	11.3倍	1.3倍
	共通テ(中期)	若干名	7 (3)	7 (3)	7 (3)	1 (0)		1.0倍
	共通テ(後期)	若干名	6 (3)	6 (3)	5 (2)	2 (0)		1.2倍
	計	40	116 (67)	105 (60)	90 (54)	26 (15)		

令和4年度入学者選抜概要

令和4年度入学者選抜における変更点は次のとおりです。薬学部では生命薬科学科の募集人員を30名に変更いたします。(入試制度毎の募集人員は表を参照)また、学校推薦型選抜(指定校制・公募制)においてインターネットを利用した出願を導入します。これで本学の全ての入学者選抜の出願がインターネット出願と

なります。

医学部では一般選抜の他に大学入学共通テスト利用選抜を設けます。

令和4年度入学者選抜概要は表(3)(4)のとおりです。

<医学部>
【募集人員】 医学科:100名

表(3)

区 分	一 般 選 抜					大学入学共通テスト利用選抜	
	95名(修学資金枠55名、一般枠40名)					5名(一般枠5名)	
試験日	一次試験				二次試験(一次試験合格者のみ)	一次試験	二次試験(一次試験合格者のみ)
	令和4年1月22日(土)				令和4年2月5日(土)、6日(日)	【大学入学共通テスト試験日:令和4年1月15日(土)、16日(日)】 本学での個別試験は課さない。	
実施都市	仙台	東京	大阪	札幌	仙台	令和4年3月4日(金) 仙台	
合格発表	令和4年1月28日(金)				令和4年2月10日(木)	令和4年2月25日(金)	令和4年3月11日(金)

<薬学部>
【募集人員】 薬学科:300名、生命薬科学科:30名

表(4)

区 分	学校推薦型選抜	一 般 選 抜		大学入学共通テスト利用選抜		
	(公募制)	(前期)	(後期)	(前期)	(中期)	(後期)
薬 学 科 (6年制) 募集人員	75 名	120 名	32 名	15 名	5 名	3 名
生命薬科学科 (4年制) 募集人員	5 名	13 名	4 名	3 名	若干名	若干名
試験日	令和3年11月20日(土)	令和4年1月22日(土)	令和4年2月19日(土)	【大学入学共通テスト試験日:令和4年1月15日(土)、16日(日)】 本学での個別試験は課さない。		
実施都市	仙 台	仙台、東京、郡山、山形、秋田、盛岡、青森、水戸(前期のみ)、札幌(前期のみ)	仙台、東京、郡山、山形、秋田、盛岡、青森			
合格発表	令和3年12月1日(水)	令和4年1月28日(金)	令和4年2月28日(月)	令和4年2月10日(木)	令和4年2月28日(月)	令和4年3月22日(火)

※指定校制<薬学科50名、生命薬科学科5名>の募集内容等については、該当する高等学校等に直接通知します。

※両学部ともに、仙台試験会場は小松島キャンパス

キャリア支援センターより

令和2年度就職(進学)状況(令和3年6月1日現在)

薬学科92.6% 生命薬科学科100% 進路決定

薬剤師国家試験の合格発表を受け、確定した就職(進学)は以下のとおりです。

◎薬学科

EAファーマ(株)、小野薬品工業(株)、日本赤十字社東北ブロック血液センター、日本全薬工業(株)、エイツーヘルスケア(株)、厚生労働省地方厚生局麻薬取締部、宮城県職員、秋田県職員、山形県職員、福島県職員、静岡県職員、(独)国立病院機構 北海道東北グループ、(独)地域医療機能推進機構(JCHO)北海道東北地区、東北大学病院、秋田大学医学部附属病院、山形大学医学部附属病院、(独)労働者健康安全機構 東京労災病院、つがる西北五広域連合 つがる総合病院、むつ総合病院、岩手県医療局、石巻赤十字病院、みやぎ県南中核病院、宮城県立こども病院、JA秋田厚生連、置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院、(社福)恩賜財団済生会 山形済生病院、山形市立病院済生館、いわき市医療センター、(公大)福島県立医科大学附属病院、春日部市立医療センター、(地独)静岡県立病院機構、国家公務員等共済組合連合会東北公済病院、(医)深仁会 札幌西門山病院、(財)黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター、(医)浄仁会 大泉記念病院、(医)寶樹会仙塩利府病院、仙台循環器病センター、(医)松田会松田病院、(公財)宮城厚生協会、(医)篠田好生会 篠田総合病院、(一財)太田総合病院、(公財)湯浅報恩会 寿泉堂総合病院、(医)社団常仁会 牛久愛和総合病院、(株)日立製作所日立総合病院、自治医科大学附属病院、(医)八潮中央総合病院、地域医療振興協会東京ベイ・浦安市川医療センター、上尾中央医科グループ、I&H(株)、(株)アイセイ薬局、アイングループ、(株)アップルケア

ネット、アポロメディカルホールディングス(株)、(株)アクア マリーン調剤薬局、ウインファーマ(株)、(株)オオノ、カメイ(株)、クオール(株)、クラフト(株)、気仙中央薬局、(株)コスモファーマ、(株)サクラファーマシー、(株)サノ・ファーマシー、(有)サンライフコミュニティ、サングループ、(株)サン薬局、シップヘルスケアファーマシー東日本(株)、総合メディカル(株)、(有)つるみ薬局、徳永薬局(株)、(株)トラストファーマシー、日本調剤(株)、(有)ネットワーク調剤、(株)パル・オネスト、(株)ピー・アンド・エス、(株)ファークロス、(株)ファーマックス、(株)ファルマ、(株)ふれあい ふれあい薬局、(株)フロンティア、ベストサービス(株)、(株)マル・コーポレーション、(株)ヤマザワ薬品、ラッキーバック(株)、薬日本堂(株)、ウエルシア薬局(株)、イオンリテール(株)、(株)クスリのアオキ、(株)クリエイトエス・ディー、サンドラッググループ、(株)スギ薬局、(株)千葉薬品、(株)ツルハ、(株)マツモトキヨシ、東北医科薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻

◎生命薬科学科

大塚製薬(株)、ニプロファーマ(株)、日本赤十字社東北ブロック血液センター、久光製薬(株)、マルホ(株)、持田製薬(株)、(株)アールピーエム、(株)EP総合、白石市、(株)ツルハ、(株)薬王堂、山形おきたま農業協同組合、アドバンテック(株)、大阪大学大学院生命機能研究科、東北医科薬科大学大学院薬学研究科薬科学専攻、東北大学大学院薬学研究科分子制御科学分野、医療創生大学薬学部

◎大学院薬学研究科

大塚製薬(株)、共立製薬(株)、米沢浜理薬品工業(株)、(株)LSIメディエンス、有機合成薬品工業(株)、シミック(株)、(学)東北医科薬科大学薬学部、東北大学病院、(医)松平病院、(株)コスモファーマ

合同就職説明会を遠隔で実施

合同就職説明会は、就職を希望する学生に対し、各企業・事業所の概要、業務の内容、採用方針及び採用条件等情報収集の場を提供する場となっております。新型コロナウイルスの感染拡大が未だに収束していない状況から、今回は動画配信やZoom等により遠隔で実施いたしました。

参加いただいた企業・事業所は、病院、薬局、ドラッグストア、公務員、製薬企業、CRO・SMO、医薬品卸等計266事業所で、そのうち動画配信で参加いただいた企業・事業所は168事業所、リアル

タイムのZoomで参加いただいた事業所は49事業所、またプロフィールのみの参加が49事業所という内容でした。

実施期間は、3月1日から3月31日までで、動画を視聴した学生は延べ2,501名、Zoomの参加者は延べ315名でした。

キャリア支援センター運営委員会では、今後も学生の就職活動や企業の採用活動の動向をみながら、また実施方法についても遠隔による方法を取り入れるなどして各種就職支援行事について更なる充実を図ってまいります。



キャリア支援センターより

令和3年度薬学部キャリア・就職支援行事予定

4月

薬学科4年生キャリアガイダンス・インターンシップ説明会
(Zoom遠隔講座)
生命薬科学科2年生キャリアガイダンス
生命薬科学科3年生就職ガイダンス・インターンシップ説明会

5月

職務適性テスト
病院薬剤師に関する説明会(動画配信)

6月

職務適性テストフォローアップ講座(動画配信)
生命薬科学科3年生キャリア支援講座Ⅱ(全4回)
業界説明会(製薬会社(MR)、CRO・SMO、医薬品卸(MS))
(動画配信)
業界説明会(製薬会社(品質管理)、化粧品(技術職)、検査(技術職))
(動画配信)

7月

業界説明会(公務員)(動画配信)
業界説明会(薬局・ドラッグストア)(動画配信)
生命薬科学科4年生就職希望者に対する個人面談

8月

生命薬科学科3年生インターンシップ事前講習会
生命薬科学科3年生夏季インターンシップ(Zoom)

9月

生命薬科学科2年生キャリア支援講座(全15回・後期授業として開講)
自己分析・履歴書・エントリーシート書き方講座(Zoom遠隔講座)
就職マナー講座Ⅰ(動画配信)
就職マナー講座Ⅱ(着こなし講座・就活メイク講座)(動画配信)

10月

履歴書・エントリーシートフォローアップ講座(Zoom遠隔講座)
学内公務員講座開講(web)(~2022年7月終了予定):有料
就職活動体験発表会(動画配信)
面接試験対策講習会①(Zoom遠隔講座)
生命薬科学科3年生適性検査R-CAP web受験(10月25日(月)~11月5日(金))

11月

業界・仕事研究セミナー
SPI3解説講座(動画配信)
生命薬科学科2年生キャリア支援講座講演会(遠隔)
製薬会社等内定者との懇談会
就活メイク体験セミナー:有料
面接試験対策講習会②(Zoom遠隔講座)
生命薬科学科インターンシップ事後講習会
生命薬科学科3年生R-CAP解説講義

12月

生命薬科学科3年生進路調査書web登録

1月

生命薬科学科3年生進路面談
生命薬科学科3年生就職ガイダンス~就活直前編~(Zoom遠隔講座)

2月

薬学科4年生就職ガイダンス、インターンシップ説明会(Zoom遠隔講座)
薬学科5年生就職ガイダンス~就活直前編~(Zoom遠隔講座)
就職活動直前講座(自己分析・ES・面接)(Zoom遠隔講座)
薬学科5年生進路調査書web登録

3月

合同就職説明会



新評議員紹介



(令和3年4月1日付)

よねざわ あきひこ
米澤 章彦 氏

米澤章彦氏は、昭和55年3月本学薬学部製薬学科卒業、昭和57年3月本学大学院薬学研究科博士課程前期課程修了後、昭和58年4月本学助手として奉職し、平成2年4月同講師、平成21年4月同准教授、平成26年4月同教授(薬学教育センター)に昇格されました。また、平成28年4月より薬学部学生委員長に就任されております。



(令和3年4月1日付)

よしむら ゆういち
吉村 祐一 氏

吉村祐一氏は、昭和60年3月北海道大学薬学部製薬化学科卒業、平成2年5月北海道大学大学院薬学研究科博士課程後期課程単位取得後退学後、同5月北海道大学薬学部文部教官助手、平成3年4月ヤマサ醤油株式会社研究開発本部研究員、平成11年5月昭和大学薬学部講師を経て、平成16年4月本学講師、平成17年4月同助教授、平成26年4月同教授(分子薬化学教室)に昇格されました。また、平成29年4月より薬学部教務委員長に就任されております。

令和3年度事業計画・令和2年度事業報告

< 令和3年度事業計画 >

令和3年3月20日開催の第478回理事会において、令和3年度事業計画が承認されました。計画における各事業領域の重要施策の概要は、以下のとおりです。

1. 教育領域

医学部・薬学部・教養教育センターの横断的組織である教育連携協議会を設置し、部局間の連携・協力をより密にして、合同ファカルティ・ディベロップメント(FD)等の全学的な取組を推進します。

2. 研究領域

医学部・薬学部・附属病院の研究連携強化に向けて、部局共通の研究倫理審査システムを導入し、審査体制の統一を図ります。

3. 学生支援領域

両学部の学生委員会と教学IR委員会が連携して、学生生活調査や課外活動調査等にて収集した情報の解析を行い、その結果を学生支援施策に反映します。

4. 入学者選抜領域

Web媒体の積極的な利活用を図り、本学ホームページにおけるデジタルコンテンツの充実や学外のWeb媒体における広報配信に取り組みます。

5. 病院運営領域

本院・若林病院の2附属病院体制における効率的機能分化と連携の強化を目指し、本院は救急医療を含めた急性期・高度急性期、若林病院は急性期・回復期の機能強化を図ります。

6. 経営管理領域

学内の危機管理体制の強化に努め、大学および附属病院における事業継続計画(BCP)の整備、各種ハラスメントの防止対策、情報セキュリティに関する啓発活動等を行ってまいります。

7. 新型コロナウイルス感染症への対応

大学・附属病院ともに、国や県により示されている様々な留意事項や措置等を遵守しながら、新型コロナウイルス感染症対策本部会議を通じて、学生および患者の安心・健康に最大限配慮した感染拡大防止策を講じます。

計画は、本学ホームページ(<https://www.tohoku-mpu.ac.jp/about/information/>)に掲載しておりますので、ご覧ください。

< 令和2年度事業報告 >

令和3年5月22日開催の第480回理事会において、令和2年度事業報告が承認されました。本法人の教育・研究・附属病院の運営等の事業や財務の概要について、令和2年度の概略を記載しております。当年度より、事業計画が本法人の中長期計画を具体的に推進するための年度計画と位置付けられたため、それに伴い事業報告も体裁・構成が大幅に変更となっております。

報告は、本学ホームページ(<https://www.tohoku-mpu.ac.jp/about/information/>)に掲載しておりますので、ご覧ください。

令和2年度決算

令和2年度決算は、法人監事の監査を経て理事会で承認された後、評議員会へ報告されました。また、監査法人による監査も適正意見を得ております。決算の概要は下記のとおりです。

令和2年度は、事業活動収入303.2億円(前年度比36.9億円増)から事業活動支出303.3億円(前年度比1.0億円減)を差し引いた基本金組入前当年度収支差額は△875万円(前年度比38.0億円増)となりました。また、基本金組入前当年度収支差額△875万円から基本金組入額21.1億円を控除した当年度収支差額は

△21.2億円となりました。

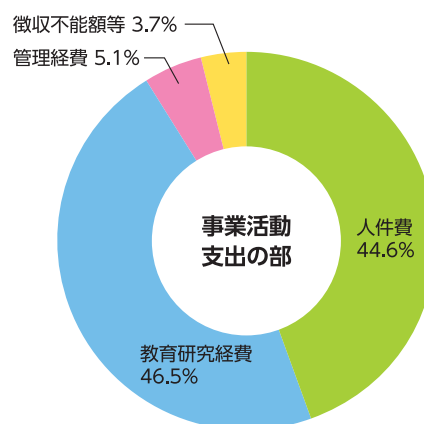
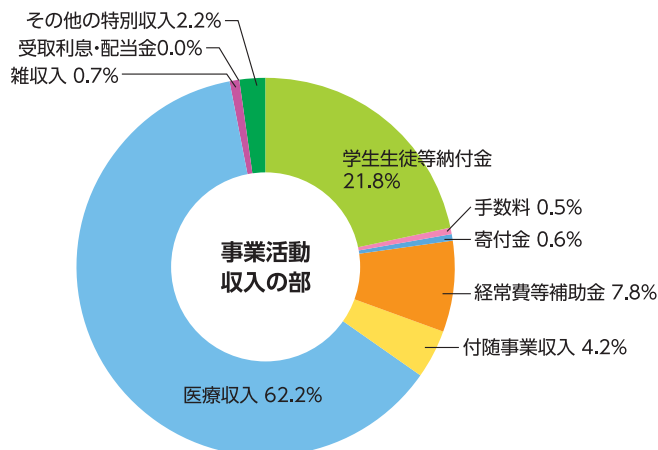
決算の詳細につきましては、本学のホームページで掲載を行っておりますので、ご参照下さい。

令和3年度は、大学・附属病院の収益増強と経費削減の具体策実施による収支改善に主眼を置き、適切な財務管理に取り組んでまいりますので、関係各位のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

令和2年度事業活動収支決算(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

(単位:百万円)

区分	事業活動収入の部				事業活動支出の部				
	科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異	
教育活動収支	学生生徒等納付金	6,597	6,597	△ 0	人件費	13,492	13,525	△ 33	
	手数料	145	149	△ 4	教育研究経費	14,048	14,115	△ 67	
	寄付金	177	194	△ 17	(うち、医療経費)	(6,468)	(6,469)	(△1)	
	経常費等補助金	723	2,356	△ 1,633	管理経費	1,542	1,534	8	
	付随事業収入	1,250	1,267	△ 17	徴収不能額等	1,120	1,118	1	
	医療収入	18,570	18,865	△ 295	徴収免除額	0	0	0	
	雑収入	209	224	△ 14					
	計	27,671	29,652	△ 1,981	計	30,202	30,292	△ 90	
教育活動収支差額						△ 2,530	△ 640	△ 1,890	
教育活動外収支	受取利息・配当金	2	2	0	借入金等利息	20	20	△ 0	
	計	2	2	0	計	20	20	△ 0	
教育活動外収支差額						△ 17	△ 18	0	
経常収支差額						△ 2,548	△ 658	△ 1,890	
特別収支	資産売却差額	0	0	△ 0	資産処分差額	0	15	△ 15	
	その他の特別収入	319	663	△ 344	その他の特別支出	0	0	0	
	(うち、教育研究協力資金)	(1)	(3)	(△ 1)					
	計	320	664	△ 344	計	0	15	△ 15	
特別収支差額						320	649	△ 329	
事業活動収入計		27,993	30,318	△ 2,324	事業活動支出計		30,221	30,327	△ 105
				予備費			140		140
				基本金組入前当年度収支差額	△ 2,368		△ 9	△ 2,359	
				基本金組入額	△ 2,014		△ 2,107	93	
				当年度収支差額	△ 4,382		△ 2,116	△ 2,266	



令和2年度外部資金獲得状況

令和3年3月31日時点

※契約済、今年度入金予定の分を含む

(1) 科学研究費助成事業(文部科学省)

(単位:円)

	薬学部・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	18	20	38	5
直接経費	25,600,000	28,680,000	54,280,000	8,000,000
間接経費	7,680,000	8,190,000	15,870,000	2,190,000
合 計	33,280,000	36,870,000	70,150,000	10,190,000

	医学部・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	14	42	56	17
直接経費	27,800,000	50,600,000	78,400,000	1,930,000
間接経費	8,340,000	15,180,000	23,520,000	579,000
合 計	36,140,000	65,780,000	101,920,000	2,509,000

	教養教育センター・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	0	1	1	3
直接経費	0	500,000	500,000	1,120,000
間接経費	0	150,000	150,000	336,000
合 計	0	650,000	650,000	1,456,000

	全学部・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	32	63	95	25
直接経費	53,400,000	79,780,000	133,180,000	11,050,000
間接経費	16,020,000	23,520,000	39,540,000	3,105,000
合 計	69,420,000	103,300,000	172,720,000	14,155,000

※移管分を含む、期間延長分・繰越分除く

(2) 科学研究費助成事業(厚生労働省)

(単位:円)

	全学部・研究代表者			研究分担者
	新規	継続	合計	合計
採択件数	1	0	1	12
直接経費	19,423,000	0	19,423,000	6,548,000
間接経費	5,826,000	0	5,826,000	335,000
合 計	25,249,000	0	25,249,000	6,883,000

(3) 受託研究費等

(単位:円)

	薬学部			
	受託研究	共同研究	奨学寄附	合計
件 数	6	12	14	32
直接経費	19,050,000	10,920,000	11,740,600	41,710,600
間接経費	4,155,000	897,000	804,511	5,856,511
合 計	23,205,000	11,817,000	12,545,111	47,567,111

	医学部			
	受託研究	共同研究	奨学寄附	合計
件 数	19	10	165	194
直接経費	110,451,711	16,030,000	88,036,159	214,517,870
間接経費	35,111,079	1,603,000	9,547,150	46,261,229
合 計	145,562,790	17,633,000	98,547,489	261,743,279

	全学部			
	受託研究	共同研究	奨学寄附	合計
件 数	25	22	179	226
直接経費	129,501,711	26,950,000	99,776,759	256,228,470
間接経費	39,266,079	2,500,000	10,351,661	52,117,740
合 計	168,767,790	29,450,000	111,092,600	309,310,390

※文部科学省共同利用・共同研究拠点事業除く

(4) 教育研究協力資金

(単位:円)

	個 人	企業・団体	合 計
件 数	422	9	431
金 額	18,182,120	32,500,000	50,682,120



学内人事

【医学部】

【新採用】

<令和3年4月1日付>
内科学第三(腎臓内分泌内科)
耳鼻咽喉科学
精神科学
地域医療学
内科学第三(腎臓内分泌内科)
感染症学
感染症学
眼科学
救急・災害医療学
内科学第三(腎臓内分泌内科)
内科学第二(糖尿病代謝内科)
老年神経内科学
内科学第二(消化器内科)
泌尿器科学
外科学第一(消化器外科)
内科学第二(消化器内科)
内科学第三(腎臓内分泌内科)
内科学第三(腎臓内分泌内科)
地域医療学
内科学第二(消化器内科)
内科学第一(循環器内科)
<令和3年5月1日付>
小児科学
<令和3年6月1日付>
老年神経内科学

講師 木村 朋由
講師 佐藤 輝幸
講師 福地 成
助教 石木 愛子
助教 石山 勝也
助教 島田 大嗣
助教 鈴木 潤
助手 浅野 良規
助手 板垣 秀弥
助手 伊藤 大樹
助手 氏家 啓太
助手 小川 諒
助手 川上 瑠子
助手 久木元 隆
助手 鈴木 秀幸
助手 津守 孝彦
助手 橋本 英明
助手 永井 良
助手 益子 茂人
助手 吉野 祐貴
医師 福井 重文
助手 阿部 聖
助教 佐藤 和彦

【昇格(職名変更)】

<令和3年4月1日付>
内科学第三(腎臓内分泌内科)
小児科学
救急・災害医療学
<令和3年7月1日付>
内科学第一(循環器内科)

助教→講師 矢花 郁子
助教→講師 北沢 博
医師→講師 古屋 智規
医師→講師 福井 重文

【兼任】

<令和3年4月1日付>
血液浄化部

助手 永井 良
(内科学第三(腎臓内分泌内科))

【所属変更】

<令和3年4月1日付>
救急・災害医療学→外科学第一(肝胆脾外科) 助教 山家 研一郎

【退職】

<令和3年3月31日付>
地域医療学
外科学第三(乳腺内分泌外科)
内科学第一(呼吸器内科)
内科学第二(糖尿病代謝内科)
微生物学
内科学第三(腎臓内分泌内科)
<令和3年6月30日付>
内科学第一(循環器内科)

准教授 佐藤 滋
准教授 寺澤 孝幸
講師 田中 章子
助教 三田 貴士
助教 矢島 美彩子
助教 宮澤 恵実子
講師 菅井 義尚

【薬学部】

【新採用】

<令和3年4月1日付>
天然物化学

助手 八木 瑛穂

【昇格】

<令和3年4月1日付>
薬学教育センター
天然物化学
病院薬剤学
薬物動態学

講師→准教授 奥山 祐子
講師→准教授 山崎 寛之
講師→准教授 岡田 浩司
助教→講師 石井 敬

【所属変更】

<令和3年4月1日付>
生体膜情報学→細胞制御学
創薬化学→分子薬化学

助教 黒田 喜幸
助教 皆瀬 麻子

【退職】

<令和2年12月31日付>
生体膜情報学
生化学
<令和3年3月31日付>
生体膜情報学
創薬化学
病院薬剤学
薬学教育センター
創薬化学

助教 中川 哲人
助手 中林 悠
教授 東 秀好
特任教授 遠藤 泰之
特任教授 渡邊 善照
准教授 高橋 央宜
准教授 猪股 浩平

【教養教育センター】

【新採用】

<令和3年4月1日付>
英語学

教授 野中 泉

【昇格】

<令和3年4月1日付>
物理学
英語学
体育学

准教授→教授 藤井 優
講師→准教授 菅原 美佳
助教→講師 深瀬 友香子

【退職】

<令和3年3月31日付>
英語学

教授 小島 良一

【事務局】

【新採用】

<令和3年4月1日付>
事務局
医学部事務局

事務局次長 堀 敏明
部長 山田 純司

【昇格】

<令和3年6月1日付>
企画部企画課

課長補佐→企画部広報室長 金子 雅子
(企画部企画課兼任)

【兼任】

<令和3年4月1日付>
財務部長
財務部管財課長
医学部事務局施設課長

堀 敏明(事務局次長)
千葉 淳一郎(財務部付部長)
山田 純司(医学部事務部長)

【兼任解除】

<令和3年3月31日付>
財務部長
<令和3年5月31日付>
企画部広報室長

堀田 徹(事務局長)
多田 晴観(事務局次長)

【退職】

<令和3年3月31日付>
医学部事務局

部長 菅原 健士
(令和3年4月1日から参与)
課長 三浦 喜昭
課長 小幡 欽也

財務部管財課
医学部事務局施設課
<令和3年6月30日付>
医学部事務局

参与 菅原 健士

本院より

「地域がん診療連携拠点病院」に指定されました

令和3年4月、東北医科薬科大学病院は「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。

平成28年度以降、再指定を目指し、院内ではがん診療推進委員会の設置、カンサーボード※の開催、外来化学療法センターの設置など体制強化の取り組みを重ねてきました。その結果、がん薬物療法の件数等は右肩上がりの増加となり、この度の指定に至ることができました。

当院の役割は主として仙台医療圏東部の患者さんを受け持ち、集学的治療を提供することです。また、がん治療に精通した医師の養成、地域医療との連携強化が今後期待される部分になります。役割を全うするとともに、期待にも応えていけるよう機能を

果たしてまいります。

※がん患者の症状や治療方針等を意見交換・検討するために様々な医療スタッフが参加するカンファレンス



正面玄関前掲示



がん診療連携拠点病院指定書

電子看板を設置しました

令和3年2月末、本館1階ホールに電子看板4台を設置しました。提携医療機関検索機能システムが利用できるタッチパネル1台と、フロアマップ・お知らせ・ニュースなどを表示するディスプレイ3台の計4台です。

提携医療機関検索機能システムとは、当院が連携している医療機関を地区および診療科目で検索できる機能のことで、患者さんへご自宅や職場から通いやすい病院を探し、情報収集することができます。

今後も、患者さんの利便性を向上させる取り組みや環境整備を積極的に行ってまいります。



ホール壁面前



ホール待合

新型コロナウイルス感染症対策について

当院では新型コロナウイルス感染症対策として、新たに正面玄関入口に検温ゲートを設置しました。当初は職員が手持ちの体温計で測定していましたが、現在はカメラで体温を測定し、問題が無ければゲートが開くシステムを採用しております。

また、空気中の浮遊菌を減少させる「紫外線照射装置」を院内21ヶ所に取り付け、空気環境の改善にも力を入れております。

当院に出入りされる方々に少しでも安心して過ごしていただけるよう、今後も感染対策に取り組んでまいります。



正面玄関入口に設置された検温ゲート



紫外線照射装置

若林病院より

人間ドックでの「遺伝子検査」の取扱いを開始

健診センターでは、今年度より人間ドックにて「遺伝子検査」の取扱いを始めました。

受診者の2ccの血液から得られる遺伝子情報を把握し、ご本人が遺伝的に抱えるリスクを認識していただき、行動変容を促すこ

とで、予防医療を強化するため導入するものです。

今年度は一部の企業のみを対象としておりますが、将来は当院の人間ドック受診者全員にオプションとして提案できるよう、準備を進める予定です。

新型コロナウイルス感染症対策

①ワクチンの接種

4月下旬より当院職員への接種を始め、5月下旬からはワクチンの「連携型接種施設」として、近隣の医療機関職員への接種を始めております。

②中高生から寄せられた応援メッセージ

近隣の中学生、高校生から当院職員に対する激励のメッセージや花束などが贈られております。メッセージを読んだ職員はみな非常に元気づけられ、仕事の励みにしております。



中高生から寄せられた応援メッセージと花束

永年勤続者表彰

例年、創立記念日に行っている永年勤続表彰式は、宮城県内の新型コロナウイルスの感染拡大・医療体制の逼迫を鑑み、昨年度同様中止となりました。

対象者59名には、高柳理事長からの感謝を綴った挨拶状・表彰状・記念品が贈呈されました。

【表彰者の内訳】

大学:14名

本院:31名

若林病院:14名



挨拶状・表彰状・記念品

薬剤部長就任



薬剤部長
岡田 浩 司

本年4月1日付で東北医科薬科大学病院薬剤部長を拝命しました病院薬剤学教室の岡田です。当院は大学附属病院として先進的で安全な医療を実践するとともに、医療を担うスタッフの育成

機関としての役割があり、それらに応えるべく薬剤部でも臨床、教育、研究において日々多様な活動を行っています。薬剤部では今年度の行動目標を「For the patients ～患者のために働く薬剤部～」としてスタートしました。あたりまえのような言葉ですが、患者さんに対する薬物療法の有効性と安全性が確保されるように専門的な知識、技術、経験を活かして行動することこそが薬剤師の使命であると考えています。スタッフ一同この目標を達成できるように誠実に取り組んでまいります。

東北医科薬科大学研究誌第67号発刊

東北医科薬科大学研究誌第67号が令和3年3月下旬に発刊されました。本誌には総説5編、原著3編、症例報告2編の論文が掲載されています。症例報告の1編は、大学院薬学研究科薬学専攻の1年生が本学病院で実施した臨床薬学研修Iで実際に関わった症例についての内容です。その他、記録として博士学位論文9編の要旨(令和元年度取得分)、薬学部教員が令和2年1月から12

月までに本誌以外の学術雑誌に発表した論文127編の要旨、学会発表210回分の表題及び薬学部・医学部教員が令和2年4月から10月の間に採択された科学研究費補助金等の外部資金採択状況一覧が掲載されています。

発刊にご協力くださいました方々に感謝申し上げます。

教養教育関係論集第34号発刊

東北医科薬科大学 教養教育関係論集第34号が令和3年3月末に発刊されました。本号は、木戸紗織講師による論説「ドイツ語学習の射程と大学教育ーコミュニケーション能力・母語・社会的タスク・自律的な学習ー」をはじめ、山下剛教授による2編の研究ノート「解放戦争後のベルリンとベッティナ・フォン・アルニム」、「ベッ

ティナ・フォン・アルニムの社会活動の始まり」を掲載しています。また、内山敦教授による令和2年度薬学部薬学科「大学基礎論」報告および家高洋教授による令和2年度医学部「大学基礎論」報告も掲載されています。

発刊にご協力くださいました皆様方に感謝申し上げます。

あおり藍を使ったお茶「あおり藍茶」が発売

薬学部生薬学教室の佐々木教授が産学連携で共同研究を行っている、あおり藍を使ったお茶「あおり藍茶」が3月に発売されました。本学のロゴもデザインされています。マスコミ等でも報道され注目が集まっています。



あおり藍を使ったお茶
「あおり藍茶」

中級バイオ技術者認定試験に合格

日本バイオ技術教育学会(JABE)が実施する中級バイオ技術者認定試験が、令和2年12月20日(日)に本学にて実施されました。

この試験は、バイオ技術分野の基礎分野から専門分野に至る幅広い基礎知識を要求されるものです。

このほど、分子認識学教室 菅原栄紀講師の指導を受けて受験した生命薬科学科3年生4名が見事全員合格しました。

※全国平均合格率76.1%



中級バイオ技術者認定試験合格者

第1種放射線取扱主任者試験に合格

令和2年度 第1種放射線取扱主任者試験に、放射薬品学教室 生命薬科学科4年の今井健太郎さんが見事合格しました。

放射線取扱主任者は、放射性同位元素等規制法に基づき放射性同位元素や放射線発生装置の使用施設、販売業などにおいて、放

射線障害防止についての安全管理の総括に必要な国家資格です。

特に第1種は業務範囲が最も広く、合格率が20%程度と難易度が高いことが知られています。

生命薬科学科の学生では、今回が初めての合格者となります。

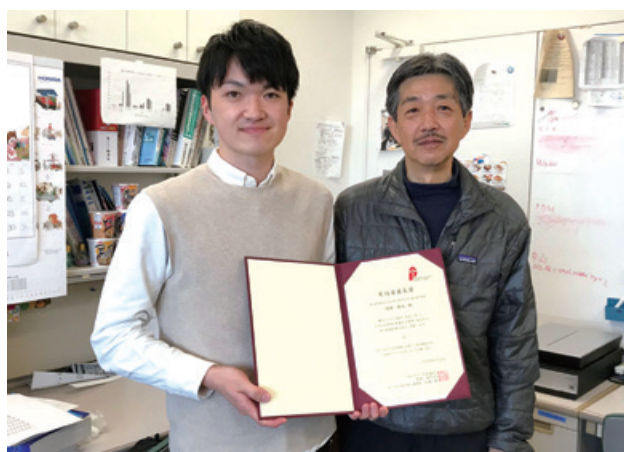
薬学部 微生物学教室 大学院の関根 僚也さんが 2020年度「日本薬学会 環境・衛生部会実行委員長賞」を受賞

テーマ

「HCV CoreのC末端領域の変異が小胞体膜蛋白質と小胞体ストレス応答に与える影響の解析」

令和2年9月3日(木)に「フォーラム2020:衛生薬学・環境トキシコロジー」において、e-ポスター掲載およびWeb会議システムを利用したライブでの口頭発表で審査選考され、4日(金)に授賞式が行われました。

日本薬学会環境・衛生部会では、優れた研究を行った学部学生に「環境・衛生部会新人賞」(3名程度)および「実行委員長賞」(若干名)を授与しています。



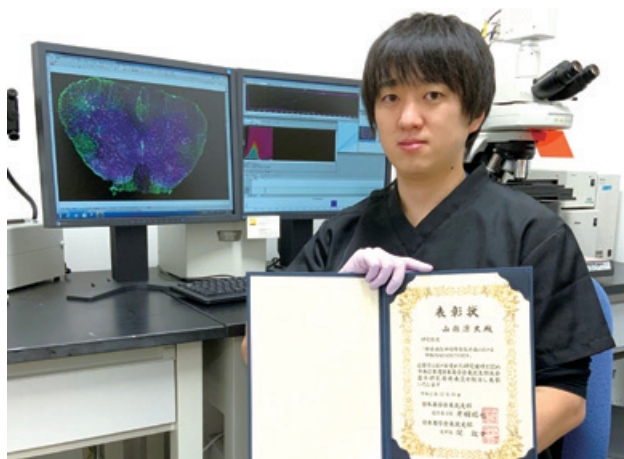
関根 僚也(薬学部微生物学教室薬学専攻博士課程3年)

薬学部 薬理学教室 大学院生 山縣 涼太さんが 「令和2年度日本薬学会東北支部大会若手研究者発表賞」を受賞

テーマ

「糖尿病性神経障害性疼痛における脊髄内ADAM17の関与」

本賞は、日本薬学会東北支部大会において若手研究者により発表された演題の中から、特に優れた発表に対して授与されるものです。



山縣 涼太(薬学部薬理学教室大学院薬学研究科薬学専攻博士課程令和3年3月卒業)

薬学部 臨床感染症学教室の藤村 茂 教授が日本機械学会賞を受賞

本学の藤村茂教授と、東北大学流体科学研究所、岡山理科大学、平山製作所(株)との共同研究が、2020年度日本機械学会賞(論文)を受賞し、令和3年4月22日(木)にライブ配信にて表彰式が行われました。

本授賞の研究では、水表面に大気圧プラズマを放電しプラズマ流を発生させ、水中に配置した医療用デバイス表面のバイオフィルム形成菌を含む各種細菌を殺滅する新しい殺菌法を開発しました。



医学部 法医学教室 奈良 明奈 助教に新潟県警察から感謝状贈呈

令和2年12月4日(金)、福室キャンパスに新潟県警察本部刑事部の方が来学し、奈良明奈助教に対し新潟県内における性犯罪事件の解明に貢献したとして感謝状が贈呈されました。

感謝状を贈呈された奈良助教は「性犯罪の被害に遭う人が一人でも少なくなるように願っています。万が一被害に遭われた場合は、すぐに警察に相談することが犯人逮捕や次の被害者を出さないことに繋がります」と、早急な被害相談の重要性を述べました。



医学部 感染症学教室 賀来 満夫 特任教授が日本野球機構(NPB)とJリーグから表彰

新型コロナウイルス感染症発生の中で安全なスポーツの継続を検討するため、一般社団法人日本野球機構(NPB)と日本プロサッカーリーグが専門家チームを設置することを決定し、賀来満夫特任教授はこの専門家チームの座長として令和2年3月から活動을続け、以下の特別賞を受賞しました。

- ・NPB AWARDS 2020 「NPB特別賞」
- ・2020 Jリーグアウォーズ 「チェアマン特別賞」



教室紹介

薬学部 環境衛生学教室(教室責任者:黄 基旭教授)

当教室では、薬学部3～4年次に開講する衛生薬学関連の講義(環境衛生学、薬物代謝安全性学、公衆衛生学)及び実習(衛生系、毒性系)を担当しています。衛生薬学は人々の健康増進や公衆衛生の向上において重要な薬学領域であり、特に薬剤師を目指す薬学生が疾病予防の観点から健康維持方法や中毒に関する知識を取得できるように務めています。研究活動では、「分子毒性学」の観点から特に脳神経傷害を引き起こす化学物質(メチル水銀など)による毒性発現機構及びそれに対する生体防御機構の解析、さらには新規生体防御因子の同定など様々な角度からのアプローチにより、化学物質に対する生体応答機構を解明することで人々の健康増進に寄与することを目指しています。また最近、我々が同定した化学物質の感受性決定因子は潰瘍性大腸炎の悪化を抑制することも見出し、その関連の基礎研究を精力的に進めています。



左から 進藤助教、黄教授、熊谷准教授

医学部 法医学教室(教室責任者:高木 徹也教授)

当教室では、法医学解剖を中心とした鑑定業務を主要実務として行っています。解剖は、宮城県警察や海上保安庁、近県警察からの囑託で、死因究明を目的とした死因・身元調査法解剖、凶器の推定や成傷機序等の鑑定を目的とした司法解剖を年間約140件行っています。また、全国の警察や法曹関係者からの依頼で、殺人未遂や傷害、性犯罪などの刑事事件、損害賠償請求や労働災害などの民事事件の鑑定にも対応し、裁判所に証人出廷する機会も増えています。近年は児童虐待の鑑定の依頼が多く、昨年度は50件ほどの鑑定を行いました。

教育業務としては、医学部学生の法医学、医学概論、医事法学等の講義を担当しています。臨床医学とは若干視点異なる法医学的知見について理解を深めてもらい、地域医療における鑑別診断の重要性、患者や家族への対応、事故や災害時の対策など、臨床の現場で医師が習得しておくべき知識を養うことを目的として講義を行っています。



左から、陶山技術職員、奈良助教、高木教授、小酒井技術職員、山田助教



同窓会より

叙勲・表彰

卒業生が受章(受賞)されました。
心からお祝い申し上げますとともに
ますますのご活躍を心より祈念いたします。

◆秋の表彰 令和2年

◆厚生労働大臣表彰

【薬事功労者】

新垣 秀幸 様 現 沖縄県薬剤師会 理事
平成6年卒業(大学42回生)(沖縄県)

◆春の叙勲 令和3年

〈文部科学省関係〉

【瑞宝双光章】

天摩 勝三 様 学校薬剤師
昭和39年卒業(大学12回生)(青森県)
伊藤 勝康 様 学校薬剤師
昭和40年卒業(大学13回生)(福島県)

第7回ホームカミングデー 開催中止のお知らせ

同窓会では、本年度も「第7回ホームカミングデー」を大学祭に合わせて開催を予定しておりましたが、全国的な新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み中止させていただくことといたします。

本イベントへのご参加を予定されていた皆様並びにご関係者の皆様には心よりお詫び申し上げます。

何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

二松会より

二松会とは、在学生の保護者によって組織され、大学および社会との緊密な連携を保ち、学生の教育に協力し、学生生活に適した事業を行うことにより教育の進展に寄与し、その効果を上げることを目的としている組織です。

【二松会総会開催案内】

日時：令和3年10月2日(土)

11:00～12:00(予定)

場所：東北医科薬科大学

(小松島キャンパス)

＜福室キャンパスへ映像配信いたします＞

※新型コロナウイルス感染症の影響により変更となる場合がございますので、あらかじめご承知をお願いします。

令和3年度在学生保護者教育懇談会開催案内

本年度の在学生保護者教育懇談会(仙台開催)を、薬学部は小松島キャンパス、医学部は福室キャンパスにて、10月2日(土)に行います。

また、仙台以外の地区で行う懇談会を、薬学部では10月16日(土)に青森市にて、17日(日)に秋田市で行います。医学部では10月16日(土)に東京で行います。

開催の案内は8月上旬に送付予定ですので、ぜひ、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

※新型コロナウイルス感染症の影響により変更となる場合がございますので、あらかじめご承知をお願いします。

●薬学部 在学生保護者教育懇談会

＜仙台開催＞

日程：10月2日(土)13:30～(予定)

会場：東北医科薬科大学 小松島キャンパス
講義棟7階 70周年記念講堂

※同日11:00より二松会総会が開催されます。

＜青森開催＞

日程：10月16日(土)

9:30～薬学科(1～3年生)、生命薬科学科(1～2年生)

13:30～薬学科(4～6年生)、生命薬科学科(3～4年生)

会場：青森市(ホテル青森)

＜秋田開催＞

日程：10月17日(日)

9:30～薬学科(1～3年生)、生命薬科学科(1～2年生)

13:30～薬学科(4～6年生)、生命薬科学科(3～4年生)

会場：秋田市(秋田ビューホテル)

●医学部 在学生保護者教育懇談会

＜仙台開催＞

日程：10月2日(土)13:30～(予定)

会場：東北医科薬科大学 福室キャンパス
教育研究棟3階 プラタナスホール

※医学部1・2年生(小松島キャンパス在籍)の保護者の方の会場も福室キャンパスとなります。

※同日11:00より小松島キャンパスにて開催される二松会総会を映像配信いたします。

＜東京開催＞

日程：10月16日(土)13:30～(予定)

会場：東京(フクラシア東京ステーション)

ご寄付のお願い(教育研究協力資金)

本学では教育・研究のための環境整備などを目的として、継続的に皆様からのご支援を受け付けております。引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

＜寄付申し込み方法(個人でのお申込み)＞

- ・インターネット：クレジットカード決済、コンビニ決済、Pay-easy決済よりお選びいただけます。QRコードまたは以下URLよりお手続きください。
(教育研究協力資金URL：<https://www.tohoku-mpu.ac.jp/about/donation/>)
- ・銀行振込：振込用紙を送付いたしますので以下の問い合わせ先までご連絡ください。

＜問い合わせ先＞

財務部財務課 TEL：022-234-4181(代表) E-mail：kifukin@tohoku-mpu.ac.jp



東北医科薬科大学 広報委員会

〒981-8558 仙台市青葉区小松島4丁目4番1号

電話番号 022(234)4181(代) FAX 022(275)2013

URL <https://www.tohoku-mpu.ac.jp/>

本学公式SNSへのご登録はこちら

東北医科薬科大学
Facebook



ご登録は
こちらから



東北医科薬科大学
Twitter



ご登録は
こちらから

